

令和2年度病虫害発生予察注意報第7号

令和2年8月17日
愛 知 県

作物名：水稲（普通期栽培）

病虫害名：トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 7月上旬の本田調査において、岡崎市、新城市、豊川市の計4ほ場で本種成虫（図1）を確認した。20回振りすくい取り調査で0.06頭（平年0.01頭、前年0頭）と、**過去10年で最も多い**。また、長久手市の予察灯において7月10日に本種が1頭誘殺された。これは過去10年で2番目に早い。
- (2) 8月上旬の本田調査において、西尾市、豊川市の計3ほ場で本種成虫（図1）を確認した。20回振りすくい取り調査で0.04頭（平年0.01頭、前年0頭）と、**過去10年で最も多い**。
- (3) JPP-NET（日本植物防疫協会運営）のウンカ飛来予測システムでは、本年の愛知県への飛来回数は7月末までに20回と解析されており、**過去10年で最も多い**（7月末までの飛来回数10年平均3.3回）。
- (4) 8月13日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並かやや少ないと予想されており、今後も本種の発生に好適な条件が続くと予測される。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は地域やほ場により発生状況が異なるため、坪枯れの初期症状（図2）を見落とさないようほ場の見回りを十分に行い、本種が寄生している場合は、直ちに防除する。
- (2) 坪枯れ（図2、3）が確認されたほ場周辺では、本種が発生している可能性が高いので、早急に防除する。
- (3) 本種は株元（図4）に生息するので、液剤や粉剤を使用して防除する場合は、株元に薬剤が十分かかるように散布する。
- (4) 粒剤を使用する場合は水田を湛水し、早急に散布する。
- (5) 防除薬剤は表を参考に選択する。
- (6) 収穫期近くになって坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く収穫を行う。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室
電話：0561-62-0085（内線471）



図1 トビイロウンカ成虫（長翅型）



図2 坪枯れ（赤矢印）及び
坪枯れの初期症状（青矢印塗り潰し）



図3 トビイロウンカによる坪枯れ



図4 株元に群がるトビイロウンカ
（成幼虫）

表 トビイロウンカに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
キラップフロアブル キラップ粉剤DL	エチプロール	収穫14日前まで	2回以内	2B
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	収穫14日前まで	3回以内	3A
アルバリン/スタークル粉剤DL アルバリン/スタークル粒剤 アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4A
エクシードフロアブル	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内	4C
スタークル液剤10	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4A
トレボン粉剤DL	エトフェンプロックス	収穫7日前まで	3回以内	3A

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。